

## 内科学

[講義] 第2学年 後期 必修 2単位

《履修上の留意事項》\* 内科学の受講にあたり、教務部長より伝えられた注意事項を厳守すること。

1. 遅刻をしないこと。
2. 講義中は私語を慎むこと。
3. 机の上には講義と関係のないものは一切おかないこと。
4. 授業の順序や担当者に変更のある場合には事前に通知する。
5. 数回分のプリントをまとめて配布する場合があるので、忘れずに持参すること。

《担当者名》 太田 亨 ohta@hoku-iryu-u.ac.jp 大村 一将 (予防医療科学センター准教授  
kohmura@hoku-iryu-u.ac.jp)

## 【概要】

内科疾患の系統分類に従い、解剖学、生理学、生化学および薬理学の関連事項をふまえ、総論・各論と講義を進める。理学療法および作業療法で最低限必要な内科疾患の病理的背景や概念、および内科的治療による影響などを解説すると共に、一般的医学知識としての内科学、特に生活習慣病について重点的に講義を行う。

## 【学修目標】

一般目標：

全身疾患に罹患した患者が安心して作業療法を受けられるよう、内科疾患の病態および症状、診断、検査、治療に関する知識を身につける。

行動目標：

内科疾患の病態・症状、疫学、診断・検査、治療法、予後について説明できる。

内科疾患に関わりのある身体的障害について理解し説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内科学総論	医学における内科学の意義について学ぶ。 内科診断のながれ：患者さんの訴えから検査、診断、治療について学ぶ。 臨床検査の概略について学ぶ。 生体機能検査について説明できる。 検体検査について説明できる。 各症状について説明できる 患者さんの診かた：診察方法について学ぶ。	太田亨
2	循環器疾患(1)	心臓大血管の解剖と生理を学ぶ。 大循環、小循環、心臓弁、刺激伝導系 心不全、血圧および虚血性心疾患について学ぶ。 心電図の基礎を理解する。 主要症候について学ぶ。 貧血、浮腫、黄疸、胸痛、意識障害など	太田亨
3	循環器疾患(2)	先天性および後天性の心臓異常を学ぶ。 不整脈および大血管の異常を学ぶ。	太田亨
4	呼吸器疾患(1)	呼吸器系の解剖および生理を学ぶ。 主要症候と病態生理を学ぶ。 感染性肺疾患について学ぶ。 慢性閉塞性肺疾患の病態、症状について学ぶ。 気管支喘息の病態、症状について学ぶ。 拘束性肺疾患の原因、病態などについて学ぶ。	太田亨
5	呼吸器疾患(2)	原発性肺癌(合併症含む)について学ぶ。 肺循環障害(肺血栓塞栓症)について学ぶ。 胸膜・横隔膜の疾患について学ぶ。 睡眠時無呼吸症候群の分類、病態、症状、治療について学ぶ。 呼吸不全の分類、病態などについて学ぶ。	太田亨
6	消化器疾患(1)	消化管の解剖および生理について学ぶ。	太田亨

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	( 消化管疾患 )	<p>主要症候（特に吐血と下血）と病態生理について学ぶ。</p> <p>胃食道逆流症、食道アカラシアについて学ぶ。</p> <p>食道静脈瘤の原因（肝硬変、門脈圧亢進症）や病態について学ぶ。</p> <p>胃・十二指腸潰瘍の成因や症状について学ぶ。</p> <p>腸閉塞の病態、症状について学ぶ。</p> <p>虚血性腸炎の病態、症状について学ぶ。</p> <p>腸重積の病態、症状について学ぶ。</p> <p>虚血性腸炎の病態、症状について学ぶ。</p> <p>炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とクローン病）の病態、症状について学ぶ。</p> <p>消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌）の特徴について学ぶ。</p>	
7	消化器疾患（2） ( 肝胆膵疾患 )	<p>肝胆膵領域の解剖生理について学ぶ。</p> <p>肝胆膵領域の主要症候と病態生理について学ぶ。</p> <p>検査法（特に生化学検査）について学ぶ。</p> <p>急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎について学ぶ。</p> <p>ウイルス性肝炎の特徴について学ぶ。</p> <p>アルコール性肝障害の症状について学ぶ。</p> <p>肝硬変の成因、病態、合併症（門脈圧亢進症を含めて）、症状、検査異常について学ぶ。</p> <p>肝癌について学ぶ。</p> <p>胆石症、胆嚢炎、胆嚢癌について学ぶ。</p> <p>膵炎、膵癌について学ぶ。</p>	太田亨
8	血液・造血器疾患・出血性疾患・血栓性疾患（1）	<p>血液細胞の発生と役割を学ぶ。</p> <p>貧血性疾患・血液細胞異常について理解する。</p>	太田亨
9	血液・造血器疾患・出血性疾患・血栓性疾患（2）	<p>出血凝固異常を示す疾患について学ぶ。</p> <p>血栓性素因について理解する。</p>	太田亨
10	代謝疾患	<p>三大栄養素の代謝調節の仕組みについて学ぶ。</p> <p>糖尿病の定義、病型、診断、検査、合併症（特に神経障害）、治療について学ぶ。</p> <p>低血糖症の原因、症状、対処法について学ぶ。</p> <p>脂質異常症の病態について学ぶ。</p> <p>メタボリックシンドロームの概念について学ぶ。</p> <p>高尿酸血症と痛風について学ぶ。</p> <p>骨粗鬆症と骨軟化症、くる病について、病態、検査、治療について学ぶ。</p> <p>ビタミン欠乏症と過剰症の症状について学ぶ。</p>	太田亨
11	内分泌疾患	<p>内分泌系とホルモンについて学ぶ。</p> <p>下垂体疾患（先端巨大症、尿崩症など）の病態、症状について学ぶ。</p> <p>甲状腺疾患（バゼドウ病、橋本病など）の病態、症状について学ぶ。</p> <p>副甲状腺疾患（原発性副甲状腺機能亢進症ほか）の病態、症状について学ぶ。</p> <p>副腎疾患（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、アジソン病など）の病態、症状について学ぶ。</p>	太田亨
12	腎・泌尿器疾患（1）	<p>腎・泌尿器の解剖生理、主要症候と病態生理、検査について理解する。</p> <p>急性腎不全、慢性腎不全の病態、分類、症状について学ぶ。</p> <p>腎代替療法（透析）について理解する。</p> <p>糸球体疾患（急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など）について病態、原因を学ぶ。</p>	太田亨
13	腎・泌尿器疾患（2）	<p>全身性疾患による腎障害（糖尿病腎症、腎硬化症な</p>	太田亨

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ど)について学ぶ。 泌尿器疾患(腎盂腎炎、前立腺肥大症、神経因性膀胱など)について学ぶ。	
14	免疫・アレルギー・膠原病疾患	アレルギーの種類と機序について学ぶ。 アレルギーの検査法について学ぶ。 アレルギー反応により発症する疾患の概要について学ぶ(アレルギー性鼻炎・花粉症、アトピー性皮膚炎、薬物アレルギー、金属アレルギーなど)。 アナフィラキシーの症状と臨床経過について学ぶ。 免疫機序と免疫異常症について学ぶ。 膠原病およびその類似疾患の定義および病態について学ぶ。 自己免疫疾患で見られる全身症状(皮膚、粘膜、関節、眼、耳、鼻、筋肉、神経、循環器、呼吸器、腎)について学ぶ。	大村 一将
15	感染症疾患・中毒	感染症の種類と治療法を学ぶ。 さまざま中毒について学ぶ。	太田亨

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(筆記試験)100%

【教科書】

浅野嘉延 編著 「なるほどなっとく!内科学 改訂2版」 南山堂 2020年

【参考書】

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版」 前田眞治 他 編 医学書院 2020年

【備考】

Google FormやManabaを活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

1. 教科書を事前に読み、予習した上で講義に臨むこと(80分)。最低限、どのような疾患を学ぶかを理解すること。
  2. 前回の講義で学んだことを復習しておくこと(80分)。
- 予習・復習に最低1時間は必要である。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2. 作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

太田 亨(医師)、大村 一将(医師)

【実務経験を活かした教育内容】

医師として医療機関での実務経験を活かし、症状から診断・治療に向かう流れや、実臨床における疾患の診かたや注意点について、診療に携わる際に役立つ講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している